

Vol.3 「引用の基本」

パクリレポート（剽窃）にならないために

レポートでは自分の意見をただ述べるだけでなく、それを支える根拠や具体的な事例などを示さなければなりません。つまり、先行研究などによって明らかにされた事実や、他者の調査によって収集されたデータなどを、自分のレポートに借りる = **引用する** 必要があるのです。ただし、この「引用」には守るべきルールがあります。

引用のルール



その① 適切な形式をとり、借りてきた文章やデータと自分の意見を明確に区別！

その② 引用箇所には出典（情報の出所）を明示！

その③ 引用した文献の書誌情報をリストにして明記！

！ これらを守らず無断でコピペすると**パクリレポート（剽窃・盗用）**に…！
レポートに対する評価が下がるだけでなく、単位を落とす、卒業取消になるなどの厳しい対応がなされる可能性もあるので注意！

引用する文献の選び方

引用はレポートや論文の客観性や論理性を高める行為ですが、**信頼性の低い資料の引用や、過度な引用の繰り返し**などで逆に評価を下げてしまうことも…。

→Webなどで見つけた資料をなんでも引用するのは避け、信頼できる資料か、レポートに本当に必要な引用かを見極めたうえで引用しましょう。

信頼性の低い資料

- ・執筆者（責任者）不明の資料
→Wikipediaなどのまとめサイト、個人ブログ
- ・根拠のない主観的な資料
- ・いつ書かれたのか分からない、あるいは論じたい内容に対して古すぎる資料

信頼性の高い資料

- ・公的機関が公表したデータ、研究者や専門家の研究論文や出版物
- ・根拠に基づく客観的・論理的な資料
- ・論じたい内容に対して適切な時代・時期の調査結果

！ 引用された資料をさらに引用する**孫引き**にも注意が必要。
自分が見た資料に引用された資料を自分も引用したい場合、必ず原典（元の資料）を辿り、原典から引用すること。

ルールの詳細を
チェック！



その① 引用の形式

何を、どのように引用したいかによってとるべき形式は異なりますが、いずれの形式であっても引用元（原文を書いた人物や公開した組織）を明らかにし、自分の意見と区別して書くことを徹底しましょう。

▶ 直接引用：原文をそのまま引用したい場合

1. 短い文やその一部を引用したい場合

→原文を「 」の中に入れ、その前後に情報源の分かる主語述語を補う

例)

桃山学院の学院章に刻まれる“SEQUIMINI ME”（我に従え）という言葉について、**桃山学院大学は「自由と愛の精神」をもって生きることですと説明する。**

引用元の分かる主語

「 」に原文をそのまま入れる

主語に対応する述語

2. 長い文章を引用したい場合（ブロック引用）

→引用のリード文を置き、前後に1行ずつ空行を挟み、原文を2字下げでそのまま入れ込む

例)

桃山学院大学は学院章について次のように説明している。

後ろが引用だと分かるリード文を

1行空け

桃山学院の学院章には、“SEQUIMINI ME”（我に従え）という言葉が刻まれています。それはアンデレガイイスに従ったように、「自由と愛の精神」をもって生きることです。

2字下げ

1行空け

原文を
そのままコピペ

このように桃山学院では基督教の精神に基づく学院章が採用されているのだ。

▶ 間接引用：要約して引用したい場合

→必要な情報や記述をピックアップして自分で要約し、引用元の分かる主語述語を補って文を整える

例)

桃山学院大学によると、学院の学院章に刻まれる“SEQUIMINI ME”（我に従え）という言葉は「自由と愛の精神」をもって生きることを示しているという。

引用元の分かる主語

原文を
自分で要約したもの

主語に対応する
文末表現



その② 出典の示し方

出典の示し方は分野によってお作法が異なります。ここではベーシックなものを二つ紹介しますが、科目担当の教員から指示があれば、その指示に従って出典を示しましょう。

▶ ハーバード方式（著者名方式）

本文中の引用箇所にかっこ書きで著者名や発行年を記述、本文末の参考文献欄に著者名順で書誌情報を記載する方法。

例)

山田（2019）は「引用の形式をとらない他者の著作物の利用は著作権法に違反する」と説明する。また、以下のような指摘もある。

引用においては自身の著作物が主、引用が従でなければならない。言い換えれば、レポートの記述の大半が引用で構成されてしまっている、ということである。（田中、2022）

さらに、田中（2023）は画像の引用については肖像権等にも配慮する必要があることも 強調している。

【引用資料】

田中一郎（2022）『レポート執筆のいろは』桃山出版,p.256

田中一郎（2023）『やさしいレポート指導』桃山出版,p.220

山田太郎（2019）『初心者のためのレポート執筆』桃学書房,p.170

▶ バンクーバー方式（引用順方式）

本文中の引用箇所に頭から通して連番の注番号を振り、本文末の注欄に、本文中の連番に対応させる形で書誌情報を記載する方法。注番号を付す位置は引用形式によって異なる。

例)

山田太郎は「引用の形式をとらない他者の著作物の利用は著作権法に違反する」^①と述べている。また、田中一郎は引用について、以下の^②に指摘している。

引用においては自身の著作物が主、引用が従でなければならない。言い換えれば、レポートの記述の大半が引用で構成されてしまっている、ということである。^②

さらに、画像の引用については肖像権等にも配慮する必要があることも 強調している^③。

【注】

①山田太郎『初心者のためのレポート執筆』桃学書房,2019年,p.170

②田中一郎『レポート執筆のいろは』桃山出版,2022年,p.256

③田中一郎『やさしいレポート指導』桃山出版,2023年,p.220

その③ 書誌情報の書き方

書誌情報として記載すべき項目は文献の種類ごとに概ね決まっていますが、記載の順番や記号の使い方は分野ごと、学会ごとに細かく異なります。以下には一例を示しますが、こちらも担当教員から指示があれば、その指示に従って記載しましょう。

●単著（著者が一人）の図書

著者名/編者名（出版年）『書名』出版社名,p.ページ数

例）細谷功（2017）『考える練習帳』ダイヤモンド社,p.202

●共著（著者が複数）の図書

章/論文著者名（出版年）「章/論文名」編者名編『書名』出版社名,pp.掲載ページ

例）高梨克也（2023）「「他者の関心に関心をもつ」ということ」萩原広道ほか編『京大発』専門 分野の越え方：対話から生まれる学際的探求』ナカニシヤ出版,pp.115-125

●学術論文（雑誌記事）

論文著者名（出版年）「論文名」『雑誌名』巻（号）,pp.掲載ページ

例）伊藤大河,山本利一（2024）「大学生を対象としたSNS等を経由する情報流出経路認識に関する意識調査」『教育情報研究』39（2.3）,pp.35-42

●新聞記事 *執筆者が記載されていない場合は未記入でOK

著者名（発行年月日）「記事名」『新聞社名』朝/夕刊,p.ページ（第●面）

例）新田修（2020.8.12）「コロナ禍の大学生生活助言 先輩のつづき 新入生に勇気 桃山学院大」『読売新聞』夕刊,第8面

●web上の記事 *閲覧日は自分がその資料を見た年月日を記載

著者名（発表年及び日付）「記事名」URL（閲覧日）

例）経済産業省（2024）「飲食関連産業の動向（FBI2024年上期）」<https://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikeizai/kako/20241226minikeizai.html>（2025.3.10確認）



慣れるまでは引用形式、出典や書誌情報の記載方法を一つひとつ確認しながら整えましょう
分からないことがあれば、いつでも学習支援センターでご相談ください！

学習支援センター

場 所：1号館2階（地上階）

開 室：9：10～18：10

（学期中は授業日のみ開室）

MAIL：ascenre@andrew.ac.jp

【HP】



【MAPS Instagram】



MOMOYAMA MAPS